

2021年度 園評価		つくし保育園
保育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康な子ども ・自分で行動し考えることのできる子ども ・感動する心を持ち、豊かに表現できる子ども ・仲間の中にいることを喜び、仲間を大切に子ども 	
○方法・環境 ○社会的責任 ○養護・教育 ○計画・評価 ○小学校との連携接続 ○安全管理 ○災害への備え ○家庭との連携・子育て支援 ○職員の資質向上		
実践・評価・反省		
<p>・RSが、0・1歳児に大流行し、アデノウイルス、胃腸炎に罹患する子どももいた。園内でコロナ感染症の陽性者が発生し、合計3回休園となった。ヒヤリハット・事故報告では、転倒・転落で受診したケースがあったが、特に上唇小帯を切る・顎を打つなどのケガが多かったように感じる。コロナ禍における生活様式が身体機能へ影響しているのかとも推測される。また、園児が園外に一人で出てしまう事故・石段から転び、その場でケガの有無や状態を確認せずに時間が経って気づき、後頭部を2針縫った事故は、職員一人ひとりの意識・そうならないような環境を整えていく重要さも痛感させられた。</p> <p>～コロナ禍において、気づき始めた子どもたちへの影響～</p> <p>・今年度は、新園舎・コロナ禍になってから初めてプールを出すことができた。プールの中で密にならないような制限はあったが、水鉄砲・スライム等々、プール以外にも子どもが‘水’で楽しめるように工夫していた。また、コロナ禍2年目となり、運動機能の未熟さを感じる事も出てきた乳児クラスでは、定期的に肋木や斜面板を組み合わせて身体能力を刺激するような活動を取り入れていた。園舎周りの工事に伴い、普段見る事の出来ない工事車両を見る事ができたり工事の人と「何してるの?」「これなに?」と他愛もない会話をしたりと、周りが工事ばかりの状況で危惧する事もあったが、こういう状況だからこそ繋がる事のできた人や物との交流だったと思う。行事については、保護者と折り合いを付ける事の難しさを感じた。昨年度より今年度の方が規制が厳しくなり、今までと同じようにできるかもしれないと期待していた保護者にとっては、寂しさや苛立ちを感じたのかもしれない。しかし、‘子ども中心’に考えると観客の有無に関わらず、発表という場で張り切ったり緊張を感じたりし、また一つ大きくなろうとする子どもの姿を見ることが出来た。</p> <p>・今年度、何よりも試行錯誤したのは、給食時だったように感じる。パーティー以外に席の配置や椅子テーブルの活用、そして、配膳の仕方、盛り付けの工夫と、制限を強いらなければならない状況下でも、少しでも子どもが楽しく感じるように、食事のマナーも、と意識していたように感じた。</p> <p>・コロナ陽性者(園児)が出たが、市役所・保健所と連携して園内設置カメラで濃厚接触者の割り出し、各家庭への連絡等や、園舎内・遊具・玩具の消毒など職員皆で対応してきた。家庭連絡の際、会長から連絡網がすぐに回らない事態が起きた。手元になかったようだが、緊急時の連絡網について再度保護者に丁寧に伝えていかなければと感じた。</p> <p>・職員の保育中の姿や言動、自己評価等、気になる時にはその都度懇談を持ち思いを聞くようにしてきた。保育に関してのことでも、その時々状況や心情で伝える側と伝えられる側で受け取り方がズレてしまうことがある。子どもの姿をみながら“もっとできそう”“もっと良くなる”と年齢なりの力を引き出そうとアドバイスをする側(事務所)、必死にもがきながら保育を作っている担任とうまく擦り合わせができない等、双方の思い(考え)が通じ合わないこともあった。事細かに伝えないと理解されない…、否定はしていないが…そう感じてしまう等、職員間での伝え合いの難しさに悩む年であった。</p> <p>・新園舎になり1年半、日々生活しているとどうしても傷や壊れ等が発生してしまう。引っ越ししてすぐは、傷をつけないようにと緊張だったが、床の傷は少しずつつくしの歴史・味になると感じ緊張も和らいでいる。来年からは大きな返済が始まっていくので、補修のないように子どもにも伝えながら大人も園舎を大事に使ってきたい。</p>		